

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0902016

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 事業期間 平成23年度～平成28年度 全体事業費 103,000千円 ・全体計画樹立 一式 ・用地取得 548ha ・森林整備 造林 55ha 下刈 105ha ・地域住民を対象とした植樹活動
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	2 多面的機能の発揮	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	北の魚つきの森環境整備事業	見直し年度		
事業期間	平成23年度～平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	森林の多面的機能		#N/A	
事業目標	水産資源の保護、自然環境の保全	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	1 地域住民を対象とした植樹活動	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

122	全体計画 事業内容	平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計 画 内 容	・全体計画樹立 一式 ・用地取得 483ha ・造林 5ha				・全体計画樹立 一式 ・用地取得 463ha	・用地取得 20ha ・造林 5ha	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	38,400	0	0	0	30,000	8,400
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	2,900					2,900
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	35,500				30,000	5,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	36,289	0	0	0	29,571	6,718
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	2,928					2,928
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	33,361				29,571	3,790	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) ○町有林造林事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値				水産資源の保護、自然環境の保全	水産資源の保護、自然環境の保全
		年度達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99%	80%
	全体達成率	0%	0%	0%	77%	95%	
	事業進捗状況				☆☆☆☆	☆☆☆☆	

事業名	北の魚つきの森環境整備事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	福田 泰弘

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	北の魚つきの森	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	水資源の保護、自然環境の保全	
【抱える課題やニーズは】	水資源・自然環境の悪化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	無秩序な開発防止、未立木地や伐採跡地の解消を図るため、町有林として適切に維持管理する。	① 用地取得 /用地取得の実績	目標年度	平成24年度
			目標値	20 ha
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	町有林として適切に維持管理することにより、水資源の保護、自然環境の保全を図る。	② 人工造林の面積 /人工造林の実績面積	実績値	24 ha
			達成度	120.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①用地の取得	河川環境整備のため、幌内川沿いの原野を取得した。		
	②新植造林の実施	河川環境整備のため、幌内川沿いの無立木地に植栽を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	水資源の保護、自然環境の保全を図るため、林地や原野を取得して公有林化し、適切な森林整備を行う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	当該事業を実施しない場合、未立木地や伐採跡地が増加し、水資源・自然環境に影響を及ぼす。
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	北の魚つきの森環境整備事業全体計画に基づき、適切に用地を取得し、新植造林を行った。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	現況の土地価格を精査し、適切な価格で用地を購入することができた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	造林については、公共造林補助事業の対象事業であり、北海道が示す標準単価を参考にして造林事業を実施していることから、事業コストは妥当である。また、事業実施にあたっては、補助事業の要件を充たす必要最低限の整備を行うように努めている。
<input type="checkbox"/> 人員削減		
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	河川環境を整備することにより、町民の財産である水資源の保護、自然環境の保全が図られ、その恩恵を誰もが享受している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
<input type="checkbox"/> 受益者負担がない		
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
水資源の保護、自然環境の保全を図るため、北の魚つきの森環境整備事業全体計画に基づき、適切に用地を取得し、新植造林を行うことができた。		



継続/現状維持		
取得用地内の森林が果たしている公益機能の重要性に鑑み、その多面的な役割の維持向上を公有林化することによって推し進め、幌内川流域の豊かな自然を未来に引き継ぐもので、最優先で実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止